



Personal MBA

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

時代は唯一現実である。それへの参加が事業を可能とできるのである。

先端性が優れるならば、それを行わなくてはならない。それが生き残りの選択なのである。

未知を創造する独創性は、既存基盤の飛躍において可能である。これらソフト資産が飛躍を与えることができるのである。

飛躍は必ず可能である。既存現実を離れることである。

効率性の追求は、高い利益性に至るのである。

時代基準は最も優れる基準であり、現実基準にすぎない。これが最も困難な企業における経営という現実なのである。

基準を最も優れたものとすることは、現実がそこに集約するのである。

創造性は必ずしも新しいものでない。既存現実が明日を求めることかもしれないのである。

目標の実現は、行動において可能である。

学びを放棄して、現実を得ることはできない。

今は最善ではない。未来が最善なのである。

経営者は、企業を決定する。そのためすべての責任を有するのである。そして経営判断が企業を与えるのである。

優秀な人材は、現実を与えることができることなのである。